

申命記の御言葉は、モーセ5章の結論の部分である。カナンの地で福音を味わい続けることである。救いを味わい続けることが大切である。申命記6章の御言葉は、重要な内容である。子孫にそのことを教えなさいと言っている。

1.すべての答えを受ける秘訣	2.シェーマ運動	3.3つの祭りを味わい
1)神様を愛する者は、報いを受ける(申 6:1-3) (1)「主を恐れて」 - 神様を愛しなさいということ。 (2)愛する者は神様の言われることを聞く。 (3)幸せの者は神様を愛して、御言葉に従う者である。 —神様を愛しないと人間は他のものを愛する。 (4)霊的には、サタンについていくか神様につくか。 (5)私達は、神様の愛の中にいる。 —イエス・キリストの中にいる人は、問題が答え。 —イエス様を愛するかが重要なポイントである。 —重要な奥義を自分の周りの人たちにも伝達する。 —総合的な祝福がついてくるようになる。 (6)神様を愛する者は長く生きる(健康になる)。 (7)救いの恵みを分かると、神様を愛する。 2)主を愛す者に経済の祝福を与える—申 6:10-11 (1)神様を愛する人は、献金を出来る者となる。 (2)経済的に貧しくならないようにする。 3)主を愛する者は経済を得る能力を回復 - 申 8:18 —どうすれば主を愛し、御言葉についていけるか。 →これを可能にするのがシェーマ運動である。	▲申命記 6:4-7 が、シェーマ運動の核心である。 1)聞きなさい—申 6:4 (1)シェーマとは「聞きなさい」と言う意味である。 →福音を聞くことである。キリストによる愛を聞くことである (2)神様の一人子であるキリスト - サタンを打ち砕き、罪を赦し、神様に出会える道を開く (3)神様は、イエスキリストを遣わして下さり、私達と共におられるようにして下さる。 —キリストと一体となるようにして下さった。 (4)神様が共におられるので私達にとって何も問題にならない。 —主は私の羊飼いであり何も乏しいことはない(詩 23:1-6)。 (5)神様の養子として下さっている - イエス様と同じ地位を与えて、神の相続を与えた。 (6)神様は私たちをこれほどまでに愛して下さっている。 (7)キリストの福音についての御言葉を聞き続ける - 幸いな者(ローマ 10:17、黙 1:3) —自分を幸いなものとして思えるほど、福音を聞き続けるように。 2)神様を愛しなさい - 申 6:5-6 (1)自分の心、人格全てが、神様を愛するようようになるまで、御言葉を刻印をする。 (2)福音を聞き続けることが信仰生活である - 神様を愛するようになる。 (3)神様を愛するほど御言葉についていく - 愛すると愛する者の為になんかしたいと思う (4)神様の愛を受ける程、聖徒同士、愛し合い、赦し合うようになる。 (5)キリストを愛するとキリストの人格になっていく。 (6)旧約時代は律法だけで愛そうとしたが出来なかった。 —福音の愛であるイエス・キリストの愛を受けてこそ神様を愛していくことが出来る。 2)御言葉を毎日聞く - レムナント運動 - 申 6:7-9 (1)御言葉を次世代に教え続けていくように。 (2)神様を愛するレムナントになれば全ての祝福はついてくる - 脳も発達する。 (3)ダラス・ウィラード教授はどのようにキリストの人格になれるのかを悩み続けた。 —ウィラード教授の晩年に、ジム・ワイルド教授が、教授の研究を受け継ぐ。 —研究の結果、脳科学的にも、人は、ある人を愛する時に、愛する人の人格が変わっていくことを分かり研究の結果をまとめていった。 (4)キリストから私達がどれほど愛されたか分かると、神様を愛するようになる。 —キリストを愛する程、キリストの人格が変わっていく。 —愛するほど、神様の御言葉に従うようにする。 (5)子供たちに神様が共におられることを毎日、聞かせるようにする。 (6)神様の愛を毎日聞かせていたら天才になる。 —カールヴィッテ牧師は、キリストの愛を持って息子を育てる。息子を天才に育てる。 (7)私達は、レムナントたちを本当に愛する - レムナントは愛を受けるほど変わっていく。 —まず自分たちが神様から受けた愛をわかってこそ子供たちに愛を与えることが可能。 (8)心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして主を愛するものとなるように(申 6:5)	▲シェマ運動は3つの祭り運動である。つまり、使 1:1、1:3、1:8 の運動。 —出 23:14(年に三度、わたしのために祭りを行わなければならない。) 1)過ぎ越しの祭り - ただキリスト (1)小羊の血を塗るときにエジプトの奴隷から解放された。 (2)キリストの祝福を味わうように。 (3)十字架で全ての問題は解決した。 —救いの福音を味わい続ける。 (4)キリストだけで十分、完全、全て —この信仰になる人は栄えていく。 2)五旬節 - ただ聖霊 (1)キリストだけで十分な事を祈ることが祈りである。 —神様が与えてくださった救いを味わうのが祈りである。 (2)聖霊が私と共におられ、神様の子どもであることに感謝をささげる。 (3)神様を愛しますとの告白をする。 (4)神様の願いの中にいれば、経済を得る力も与えてくださる。 3)収穫の祭り—ただ神の国 (1)本当に主を愛すると、主に従いたくなってくる。 (2)伝道が成就をされるようになる。 —天国の祝福が臨まれる。 —幸せな人は、人を赦せる。 (3)申 33:29—私達は本当の幸せな者 —悪魔は完全に踏み砕かれた。 (4)祈り計画(神様の愛を味わう時間を持つ)。 (5)伝道計画(伝道冊子を配布する) ▲結論—クリスマスの時期に多くに人に神様の愛を伝えるように。 —伝道冊子の配布

現場地教会(2020年12月13日～2020年12月19日)

【賛美】「イエスわが王よ」

- 1) イエスわが王を賛美で迎えん 栄光の主の御座を もうけたまえ主よ
私は神のもの ゆえに神にささげん 御心のままにおさめよ 主イエスよ
2) イエスわが王よ ここに來られ われが主にささぐ 賛美受けたまえ
われは主のしもべ 主はわれらのきみ 主なるイエス來られ 賛美を受けたまえ

【使徒信条】

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより來たりて、生ける者と死にたる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる公同教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。アーメン

【メッセージ】 「キリストの愛を次世代に伝えなさい」(申 6:1-9)

【讚美】 126 天にはさかえ

【祈り】

①教会の祈りの課題

- ・元旦メッセージ:「サタンを踏み砕く」ローマ 16:20、
「次世代を生かす歩みとなる 30 年」ローマ 16:25-27
 - ・御国イザヤ牧師に聖霊充滿と 5 つの力が与えられるように。
- ②現場地教会の聖徒の中で欠席された方、問題、病にある方、新しい家族のために。
③現場地教会参加者の祈りの課題(集まった聖徒の祈り課題を付箋に記入)のため。

【フォーラム】

【祈り】

【主の祈り】

天にましますわれらの父よ。ねがわくは、御名をあがめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。国とちからと栄えとは限りなくなんじのものなればなり。 アーメン

福音宣教教会 祈り題	1. 福音宣教教会(ローマ 16:20、25-27) 2. 主任牧師(使徒 6:4、アモ 3:7、創世記 18:17) 3. レムナント(イザヤ 6:13) 4. 癒し(使徒 19:8-20) 5. 日本神学校、東日本神学校(Ⅱ列 6:8-23) 6. 200 都市(創世記 41:36-38) 7. 1000 大学(使徒 19:9-10) 8. 日本総会教会(使徒 6:4、コロ 4:2-3) 9. 日本 8000 教会(使徒 17:1-3) 10. 本部、柳牧師(138、14、24、25、00、237) 11. 日本をキリスト教国家とする(使徒 18:9-10) 12. 237 宣教、太平洋・インド洋宣教(マタ 24:14、使徒 1:8)
契約の祈り (主日礼拝)	1. 多くの人が苦しんでいる苦難の時代に、神様を愛して御言葉に従順する者にはすべての祝福をくださり証人にされることを感謝します。 2. 神様が独り子キリストを遣わすほどに私を愛された福音を聞くとき、ますます神様への愛が生まれ、キリストの人格に変わり、教会中心・伝道宣教・Rt 運動に従順する者になることを信じます。 3. 礼拝と祈りで神様の愛である福音を味わうとき、ただキリストで十分・完全・満足になり、愛と喜びで教会中心・伝道宣教・Rt 運動に勝利する、幸せな霊的軍隊になりますように。
お知らせ	1. 本日 14:00 サミットスクール説明会(6 階幼稚部礼拝堂) 関心のある方は、ご参加ください。 2. 12 月 20 日(主日) クリスマス主日(名古屋教会洗礼式・幼児洗礼式) 14:00 クリスマスフェスティバル 3. クリスマスシーズンを迎えて、伝道冊子とクリスマスフェスティバルのパンフレットを活用して、伝道計画を実践しましょう。
福音宣教教会 主管牧師：御国イザヤ 名古屋市中区栄 5 丁目 23-8 / tel: 052-238-6003 主日(日曜) 1 部礼拝 7:00 / 2 部礼拝 10:00 / 3 部礼拝 12:00	